

今月は、9月16日の敬老の日を前に、「介護」をテーマにお届けします。仕事と介護の両立に関する調査研究を進めておられる武石先生のコラムや、ワーク・ライフ・バランスに関する制度施策や企業事例紹介、最新の動き、調査研究等についてお送りします。

.....

(目次)

《コラム》

「従業員の介護責任に職場はどう対応すべきか」

法政大学キャリアデザイン学部 教授 武石恵美子氏

《制度施策紹介 ～人事担当の皆様へ～》

●労働時間全般のご相談に対し無料でアドバイスをを行います「働き方・休み方改善コンサルタント」【厚生労働省】

《企業事例紹介》

●休暇を積極的に楽しもう！「ポジティブ・オフ」運動 取組事例を掲載中！【観光庁】

《最新情報》

●お知らせ

・「待機児童解消加速化プラン」第一次集計の結果を公表【厚生労働省】(2013年8月) 他

●地方公共団体等の動き

・男性の育児休業取得奨励金【滋賀県】(2013年8月) 他

●イベント (開催日順に掲載)

・ワーク・ライフ・バランス企業トップセミナー【主催：佐賀県】 他

《統計・調査トピックス》

●仕事と介護の両立に関する企業アンケート調査(平成24年度厚生労働省委託調査)【三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社】(2013年3月) 他

.....

《コラム》

「従業員の介護責任に職場はどう対応すべきか」

法政大学キャリアデザイン学部 教授 武石恵美子氏

筆者が参加している東京大学ワーク・ライフ・バランス推進・研究プロジェクトでは、仕事と介護の両立に関する調査を2011年度から実施してきている。今後40代、50代の現役労働者の多くが、老親など親族の介護責任を担うことになるのは確実であり、この問題に介護責任を持つ従業員を抱える職場がどう対応すべきか、ということを検討してきた。

プロジェクトで調査から明らかになった重要な点は、50代になると男女とも1~2割程度の従業員が介護に関わっていること、しかし介護のために企業の両立支援策を利用してい

る人はごく少数であること、介護に関わっていることを職場で話していない割合は男性では3割を超えること、今後親族を介護する可能性がある人は40代では7～8割程度と高くその大部分が仕事と介護の両立などに不安を感じていること、介護になった場合に仕事を続けられると考えているのは1/3程度にすぎないこと、などである。

この課題に対応するためには、来るべき介護に備えて従業員の介護不安を減じること、実際に介護に直面した場合に仕事を辞めないで働き続けることができるように支援すること、の2つの面からアプローチをする必要がある。

現在介護には直面していないが将来に不安を感じている従業員に対しては、介護に関する情報提供を行い、介護に関わることになった場合には職場に相談をして仕事を辞めない方策を検討することが重要であることを伝えることが必要である。介護になっても仕事との両立ができるという見通しが持てるようにすることにポイントを置く。

実際に介護に直面している従業員に対しては、自身が介護の担い手となるのではなく、他の親族との協力や介護サービスなどの活用により、仕事と両立しながら介護ができる体制の整備を優先させる重要性を伝えることがポイントとなる。従業員の事情に合わせて仕事をしながら介護ができるようにするための職場対応が可能かどうかを、個々のケースに即して検討することも重要である。

従業員の介護責任に対する職場対応は、従業員が直接介護を担うことを前提に「介護のための」支援策を検討すると限界がある。仕事と両立しながら介護をするという「両立」支援に重点を置かないと、介護問題の多様性に対応できないことを理解しなくてはならない。

.....

《制度施策紹介～人事担当の皆様へ～》

●労働時間全般のご相談に対し無料でアドバイスをいたします「働き方・休み方改善コンサルタント」【厚生労働省】

働き方・休み方改善コンサルタントは、「無料」で、「残業を減らしたい」「年次有給休暇の計画的付与制度を取り入れたい」「変形労働時間制を導入したい」といった労働時間全般の相談に対し、アドバイスしています。また、労働時間などに関する研修会・説明会の講師対応も行っています。

相談等を希望される場合は、都道府県労働局労働基準部監督課（東京・愛知・大阪労働局は労働時間課）へ直接ご連絡ください。

【労働時間の設定の改善全般について】

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/jikan/index.html

.....

《企業事例紹介》

●休暇を積極的に楽しもう！「ポジティブ・オフ」運動 取組事例を掲載中！【観光庁】

・株式会社 wiwiw

育児休業者能力アップ支援や企業におけるワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティの推進支援を行っている株式会社 wiwiw では、女性が多く活躍している職場ということもあり、仕事と家庭の両立を支援すべく、働き方や休暇を支援する制度整備に力を入れています。

働き方を支援する制度として、入社・退社時間を通常よりも1時間早めることができるシフト勤務制度が導入されているほか、社員からの要望もあり、今後は在宅勤務、週4日勤務制度などの導入も検討しています。

休暇制度では、家族の急な看護が必要な際にも活用できるように、年休を全て時間単位で取得できるようにしています。その他にも、バースデー休暇を設けたり、一定期間勤務した社員には1週間以上のリフレッシュ休暇を与えたりするとともに、研修休暇も制度化しています。

社員に成果を求めながらも、オンとオフの双方でバックアップする制度を整え、女性も働きやすい職場を作ってきた同社。「ポジティブ・オフ」運動への賛同をきっかけに、今後はオフのインプットを仕事でのアウトプットにつなげてもらうため、まとまった時間での休暇取得を社員に呼びかけていきます。

「ポジティブ・オフ」運動 取組企業・団体の事例掲載中！

⇒ http://www.mlit.go.jp/kankocho/positive-off/torikumi/page02_000043.html

.....

《最新情報》（原則として、発行月の前月以降に更新された内容を掲載しています。）

●お知らせ

・「待機児童解消加速化プラン」第一次集計の結果を公表【厚生労働省】（2013年8月）

厚生労働省では、「待機児童解消加速化プラン」の参加自治体について、8月8日付で351市区町村の取組みを採択し、その状況について第一次集計を行いました。

⇒ <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000014551.html>

・若者の「使い捨て」が疑われる企業等への取組を強化【厚生労働省】（2013年8月）

厚生労働省は、若者の「使い捨て」が疑われる企業等が社会で大きな問題となっていることを受け、

- 1.長時間労働の抑制に向けて、集中的な取組を行います
- 2.相談にしっかり対応します
- 3.職場のパワーハラスメントの予防・解決を推進します

上記3点を取組の柱とし、具体的な対策を行っていきます。

⇒ <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000014323.html>

・パンフレット「ひとりひとりが幸せな社会のために」作成【内閣府】（2013年8月）

内閣府は、「ひとりひとりが幸せな社会のために～男女共同参画社会の実現をめざして～

(平成 25 年版)」を作成しました。「女性の就業継続をめぐる状況」等、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の現状についても記載しています。

⇒ <http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html>

・国民生活に関する世論調査【内閣府】(2013 年 8 月)

本調査は、現在の生活や今後の生活についての意識、家族・家庭についての意識など、国民の生活に関する意識や要望を種々の観点でとらえ、広く行政一般の基礎資料とするものです。

- ・働く目的については、「お金を得るために働く」48.9% (前回調査比 2.2%減)、「社会の一員として務めを果たすために働く」16.1%
- ・収入と自由時間については、「収入をもっと増やしたい」47.3%、「自由時間をもっと増やしたい」34.1% (前回調査比 3.2%減)

等の結果が得られています。

⇒ <http://www8.cao.go.jp/survey/h25/h25-life/index.html>

・「ヒントがいっぱい！ワーク・ライフ・バランス実践例」掲載【内閣府】(2013 年 8 月)

政府広報オンラインにおいて、第 1 回「カエルの星」認定 6 チームを中心にワーク・ライフ・バランスに取り組んだきっかけ、成果をあげるまでの道のりについて紹介しています。

⇒ http://wwa.cao.go.jp/wlb/kanren/kanren8.html#work_life

・ワーク・ライフ・バランスに関するエピソードの募集【内閣府】(2013 年 8 月)

「仕事だけでなく育児や地域での活動にも貢献し、人生を豊かにしたい」などの生き方を実現する、ヒントになるエピソードを募集します。「個人の仕事のやり方」「上司と部下のコミュニケーション」など「職場での関係性」から、「やってよかったこと」、「やってはいけなかったこと」の経験をご応募ください。

その他 応募されたエピソードをもとに、「選定会議(公開)」を実施し、「プラクティス集」を作成し、成果物として、内閣府のホームページ上で公表します。

(締切:平成 25 年 10 月 10 日頃、詳細:近日中に内閣府ホームページにてお知らせします。)

●地方公共団体の動き

・男性の育児休業取得奨励金【滋賀県】(2013 年 8 月)

滋賀県では、企業における男性労働者の育児休業取得を促進するとともに、男性の育児休業の取得に向けた気運醸成を図るため、男性労働者に育児休業を取得させた場合に、当該事業主に対し、奨励金を支給します。

⇒ <http://www.pref.shiga.lg.jp/e/kodomokatei/ikumensyorei.html>

・平成 25 年度「働くあなたへ 絵てがみ・イラスト作品展」作品募集【滋賀県】(2013 年

8月)

滋賀県では、ワーク・ライフ・バランスについての理解の促進と、男性も女性も働きやすい環境づくりへの社会全体の気運の醸成を図ることを目的に「働くあなたへ 絵ががみ・イラスト作品展」を開催、作品を募集します。

⇒ <http://www.pref.shiga.lg.jp/rosei/etegami/h25etegamibosyu.html>

・男女共同参画推進講演会・シンポジウム若者パネリスト募集【香川県】(2013年7月)

平成25年12月7日に開催する香川県男女共同参画推進講演会シンポジウム「未来のかがわ経済を支える人材育成ー女性の活躍促進ー」の若者パネリストを募集します。(選考方法: レポート審査、締切: 9月30日、応募方法: 香川県電子申請システムによる)

⇒ <http://www.pref.kagawa.lg.jp/danjo/sankaku/kouenkaiH25bosyuu.html>

・ワーク・ライフ・バランス推進員派遣申込企業募集【香川県】(2013年7月)

香川県内の企業等におけるワーク・ライフ・バランスへの取組みを促進するため、各企業等に対し、ワーク・ライフ・バランス推進員を派遣します。(申込期間: 平成25年12月27日)

⇒ <http://www.pref.kagawa.lg.jp/rosei/fukushi/pdf/25work-life.pdf>

・「第1回おかあさんのための再就職実践コース」参加者募集【熊本県】(2013年8月)

熊本県では、就業ブランクによる子育て中の女性の悩みや不安を3つのプログラム(パソコン講習、再就職準備セミナー、キャリアコンサルティング)で着実に解消する実践コースを実施します。(定員20名、申込締切9月13日)

⇒ <http://www.pref.kumamoto.jp/site/sigotosien/siennpuro-jissennkosu-1.html>

・「パパスクール」～秋を中心に5区で開校【神奈川県横浜市】(2013年8月)

横浜市では、育児についてもっと知りたい、子育てを通じてパートナーや家族との絆を深めたいというパパたちの声に応え、パパ向け講座を充実させてきました。平成25年度は、身近な地域を会場にした『地域版パパスクール』を7区で展開し、パパの学びとパパ友作りを応援します。

⇒ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kodomo/kikaku/wlb/file/0809presspapa.pdf>

●イベント(開催日順に掲載)

・ワーク・ライフ・バランス企業トップセミナー【主催: 佐賀県】

日時 平成25年9月2日(月) 13:30~15:30

場所 佐賀市保健福祉会館(ほほえみ館) 4階 視聴覚室

対象 県内企業・事業所等の経営者、人事労務担当部長、担当者等 80名

内容 講演「企業と社員を活性化させるワーク・ライフ・バランスの実現」

(有)シーエスピー代表取締役社長 千畑博信氏 他

参加費 無料

⇒ http://www.pref.saga.lg.jp/web/shigoto/_63897/work-life-valance/_73185.html

・経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス【主催：阪神南地域雇用対策三者会議 他】

日時 平成 25 年 9 月 4 日（水）14:00～16:00

場所 尼崎商工会議所 7 階 701 会議室

定員 100 名

内容 基調講演「稲村流ワーク・ライフ・バランスのススメ」尼崎市長 稲村和美氏
パネルディスカッション

参加費 無料

⇒ http://web.pref.hyogo.lg.jp/hsk01/press/25072401_press.html

・自分流ワーク・ライフ・バランスのすすめ【主催：新潟県燕市】（3 回連続講座）

日時 （第 1 回）平成 25 年 9 月 10 日（火）18:30～20:30

（第 2 回）平成 25 年 9 月 17 日（火）18:30～20:30

（第 3 回）平成 25 年 9 月 24 日（火）18:30～20:30

講師 第 1 回、第 2 回：(株) WLB 代表取締役 田中亮祐氏、
第 3 回：産業カウンセラー 宮川一二三氏

場所 燕市役所 会議室 101

募集人数 20 名

参加費 無料

⇒ <http://www.city.tsubame.niigata.jp/participate/008001013.html>

・子ども・子育て支援新制度フォーラム in 札幌【主催：内閣府、文部科学省、厚生労働省】

日時 平成 25 年 9 月 23 日（月・祝）13:30～16:20

場所 札幌コンベンションセンター 大ホール

基調講演 「認定こども園が目指すもの」

子ども・子育て会議会長／白梅学園大学子ども学部教授 無藤 隆氏

定員 800 名

参加費 無料

⇒ <http://www.hip-ltd.co.jp/kosodateforum/sapporo.html>

・「地球社会を共に生きる ～子どものまなざしから考える ワーク・ライフ・バランス～」
【主催：内閣府 他】

日時 平成 25 年 9 月 30 日（月）13:00～16:00

場所 静岡県男女共同参画センターあざれあ

内容 講演「子どものまなざしから考える ワーク・ライフ・バランス」
静岡大学教育学部教授 石原剛志氏 他

定員 100名（先着順）

参加費 無料

⇒ <http://www.gender.go.jp/public/event/2013/renkeievent0930.html>

・次世代の女性管理職養成セミナー【主催：愛知県】

日時 平成25年10月1日（火）、10月17日（木）、11月7日（木）、11月19日（火）
の4日間、9:30～16:30

場所 愛知県女性総合センター（ウィルあいち）1階 視聴覚室

対象 県内の企業等で働く女性中堅社員（企業からの推薦を受けた方。既に管理職の方を除く）20名（要申込）

講師 愛知淑徳大学講師 中島美幸氏 他

参加費 無料

⇒ <http://www.pref.aichi.jp/0000063089.html>

・ワークライフバランス推進企業見学バスツアー【主催：東京都】

（第1回）

日時 平成25年10月7日（月）9:00～17:30（予定）

訪問先企業 NTTコミュニケーションズ（株）、パシフィックコンサルタンツ（株）

（第2回）

日時 平成25年11月1日（金）9:00～18:00（予定）

訪問先企業 （株）タカラトミー、パシフィックコンサルタンツ（株）

対象 都内中小企業等の事業主又は人事労務担当者

参加企業数 各回20社

参加費 無料

⇒ <http://www.metro.tokyo.jp/INET/BOSHU/2013/08/22n8m400.htm>

・女性人材の活躍推進セミナー～本当は女性は働きつづけたい～【主催：東京都】

日時 平成25年11月20日（水）、11月27日（水）18:30～20:30

場所 東京しごとセンター（飯田橋）東京しごとセンター地下講堂

対象 使用者及びその他関心のある方 70名（先着順）

テーマ「女性就労の課題」（11/20）「女性の継続就業・再就職に向けての支援とは」（11/27）

講師 読売新聞東京本社 編集委員 永峰好美氏

参加費 無料

⇒

http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/seminarform/index/detail?kanri_bango=seminar-zc-huo-000415

・ワーク・ライフ・バランスセミナーIN 船橋【主催：千葉県、船橋市】

日時 平成 25 年 11 月 26 日 (火) 14:00~16:00

場所 船橋市役所本庁舎 11 階 大会議室

対象 企業の経営者、人事労務担当者、一般県民 80 名 (先着順)

講演 「業績 UP! のワーク・ライフ・バランス~最初の一步を踏み出す~」

京葉中小企業労務協会会長 特定社会保険労務士 石倉雅恵氏 他

参加費 無料

⇒ <http://www.pref.chiba.lg.jp/koyou/event/2013/semina.html>

.....

《統計・調査トピックス》

今月のテーマおよびワーク・ライフ・バランスに関連した調査についてご紹介します。

●仕事と介護の両立に関する企業アンケート調査 (平成 24 年度厚生労働省委託調査)【三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社】(2013 年 3 月)

本調査は、介護に焦点を当て、各企業における両立支援制度の導入や運用の実態、職場環境整備の取組、それらの効果や課題を把握することを目的として、「仕事と介護の両立支援の状況」「仕事と介護の両立支援に関する今後の課題・展望等」などについて調査したものです。

- ・介護を抱える従業員がいるかどうかの実態把握を行っている企業は半数程度
- ・企業における仕事と介護の両立支援として重要と考えられるものをみると、「実態・ニーズ把握」のほか、「法定制度の整備」「仕事と介護の両立に関する情報提供」が上位
- ・今後、企業においては、まず、将来への不安を含め、従業員の介護に関わる実態把握を行い、どのようなニーズがあるのかを踏まえた上で、仕事と介護を両立できる制度整備、個別対応、従業員への周知普及等を進めていくことが求められる等の結果が得られています。

⇒ http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/h24_survey.html

●育児休業 3 年化と待機児童問題に関する意識調査【メディケア生命保険株式会社】(2013 年 7 月)

メディケア生命保険株式会社は、未就学児の母親 1,000 名を対象にしたアンケート調査を実施しました。

- ・「育児休業 3 年化」に賛成 未就学児のママの 7 割強
- ・実際に取得したい休業期間の長さ「2 年未満」が 6 割、「2 年以上」は 4 割
- ・育休 3 年化で「出産・育児のための退職が減る」約 7 割、「働く女性の活躍が推進される」約 5 割

等の結果が得られています。

⇒ <http://www.medicarelife.com/news/pdf/N262/file1.pdf>

●継続就労への職場環境と課題に感じる事【エン・ジャパン株式会社】(2013年7月)

エン・ジャパン株式会社は、正社員で働くことを希望する女性向け求人情報サイト「[en]ウィメンズワーク」上で、「継続就労への職場環境と課題に感じる事」についてアンケートを実施しました。

- ・長く働けると感じる職場環境、第1位「職場(上司・同僚)の理解がある」
- ・結婚後、働き続ける上で感じる課題、第1位「勤務地や時間など、勤務条件に合う仕事を見つけること」

等の結果が得られています。

⇒ <http://corp.en-japan.com/newsrelease/2013/2515.html>

.....

●このメールは送信専用メールアドレスから配信されております。

このままご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

配信中止・配信先変更は、こちらから

<http://wwa.cao.go.jp/wlb/e-mailmagazine/tetsuzuki.html>

バックナンバーはこちらから

<http://wwa.cao.go.jp/wlb/e-mailmagazine/backnumber/index.html>

このメールマガジンへのご意見・ご要望はこちらから

<https://form.cao.go.jp/gender/opinion-0086.html>

内閣府仕事と生活の調和推進室ホームページはこちらから

<http://wwa.cao.go.jp/wlb/>

.....

《編集後記》

猛暑もやっと落ち着いて、過ごしやすくなってきました。読者の皆様はもう夏休みを満喫されたでしょうか。夏は、休暇(オフ)を前向き(ポジティブ)に過ごし、外出や旅行を思い切り楽しむ良い機会ですね。私は実家を訪れて、いつの間にか背の高くなった姪っ子達と一緒に花火をしました。夏休みに限らず、休暇を上手にとることでワークもライフも充実してくる気がします。しかし、2011年における年次有給休暇の取得率は49.3%。「仕事と生活の調和推進のための行動指針」に掲げる70%という目標にはまだ遠いです。秋のレジャー、冬の帰省など、休暇も含めて今から計画してみませんか。(あ)

.....